

平成30年7月9日（月）
四国地方整備局 高知河川国道事務所

平成30年7月梅雨前線の物部川における出水状況 ～深淵水位観測所（基準地点）で観測開始以降第2位の水位を記録～ （速報）

■ 要旨

- ・ 深淵上流の流域平均で約1,200mmの雨を観測（7/3～7/7）
- ・ 深淵水位観測所（基準地点）で4.52mを記録
（観測開始以降第2位の水位）
- ・ 下ノ村箇所の引堤事業がなければ堤防が決壊していた可能性

※本資料は、7月9日 8時時点でとりまとめたものです。

※本資料による数値は、現時点での速報値であり、今後修正される場合があります。

【問い合わせ先】

国土交通省 四国地方整備局 高知河川国道事務所

副所長（技術） おかばやし 岡 林 ふくよし 福好（内線204）

◎調査課長 しん かわ 新 川 かずゆき 和之（内線351）

TEL（088）832－0779

◎主たる問い合わせ先

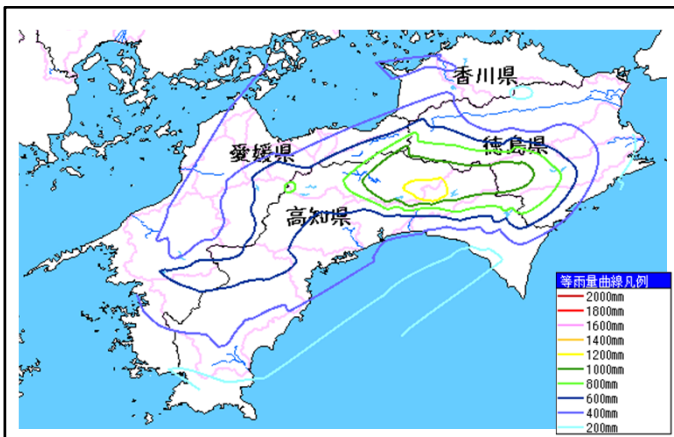
気象の概要 (平成30年7月 梅雨前線)

太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、西日本から東日本に停滞する梅雨前線の活動が活発になり、広い範囲で記録的な大雨が降りました。

物部川流域では、この降雨により7月3日から7月7日までの5日間の総降水量が多いところで1,600ミリを超えるなど、記録的な大雨となり、深淵地点上流の流域平均総降水量は、1,219ミリ(速報値)を記録しました。

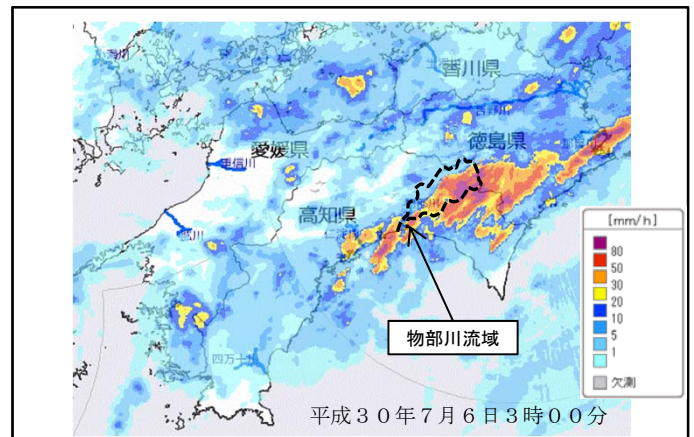
■梅雨前線等雨量線図(国交省・気象庁観測地点)

[総雨量:平成30年7月3日~7月7日]



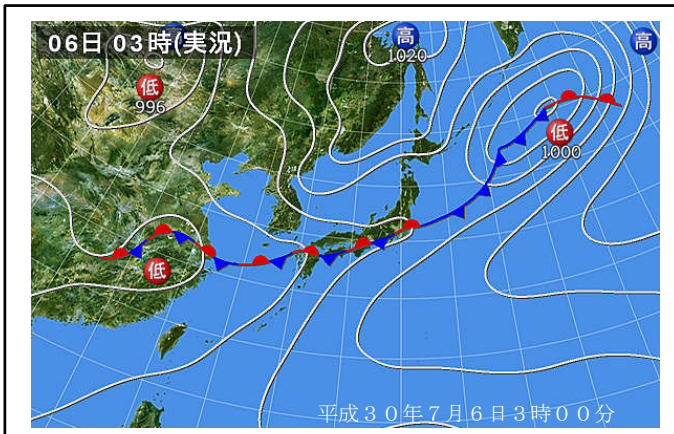
■レーダー雨量画像

(出典:川の防災情報ホームページ)



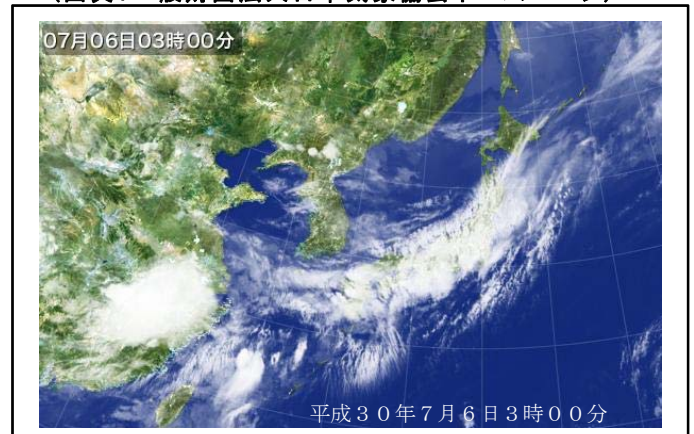
■天気図

(出典:一般財団法人日本気象協会ホームページ)



■気象衛星画像

(出典:一般財団法人日本気象協会ホームページ)

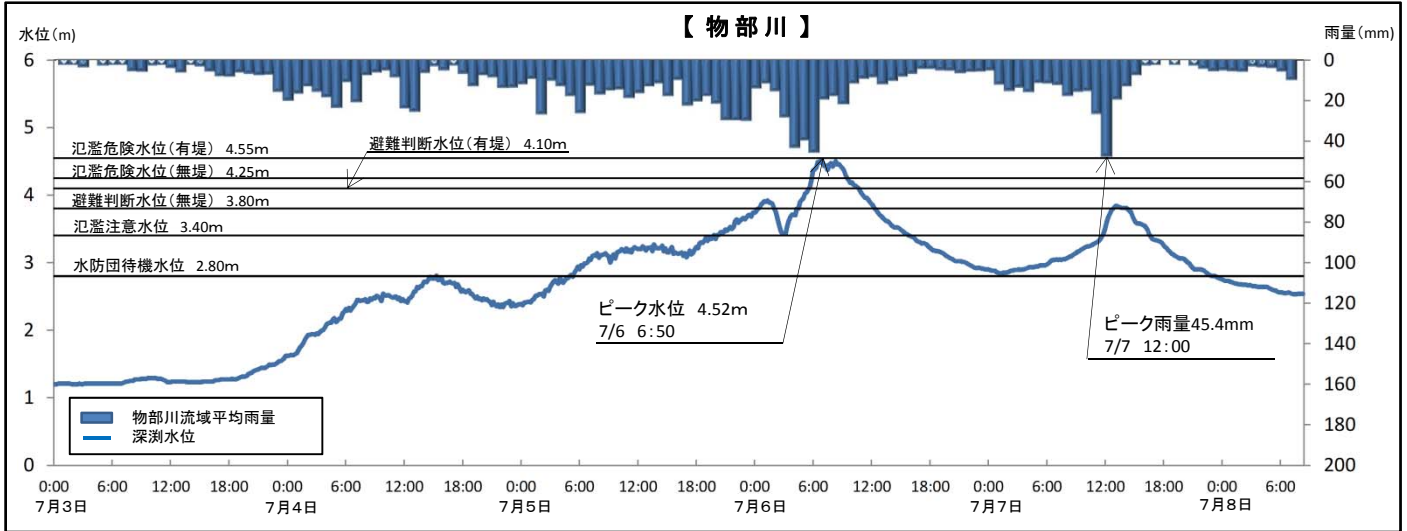


■代表的な雨量観測所における累加雨量[平成30年7月3日~7月7日]

物部川流域:佐敷(国交省) 830mm	香北(国交省) 1,641mm
岩改(国交省) 723mm	大東(国交省) 1,346mm

物部川の出水状況 (平成30年7月 梅雨前線) ①

物部川流域では、香南市野市町の深淵水位観測所(基準地点)において、5日5時00分頃に「水防団待機水位2.80m」、5日19時50分頃に「氾濫注意水位3.40m」、6日0時20分頃に「避難判断水位(無堤)3.80m」、6日5時40分頃に「避難判断水位(有堤)4.10m」、6日6時00分頃に「氾濫危険水位(無堤)4.25m」を超過し、6日6時50分頃に最高水位4.52m【氾濫危険水位(有堤)4.55mまで3cm】に達しました。



約 4 m の水位上昇

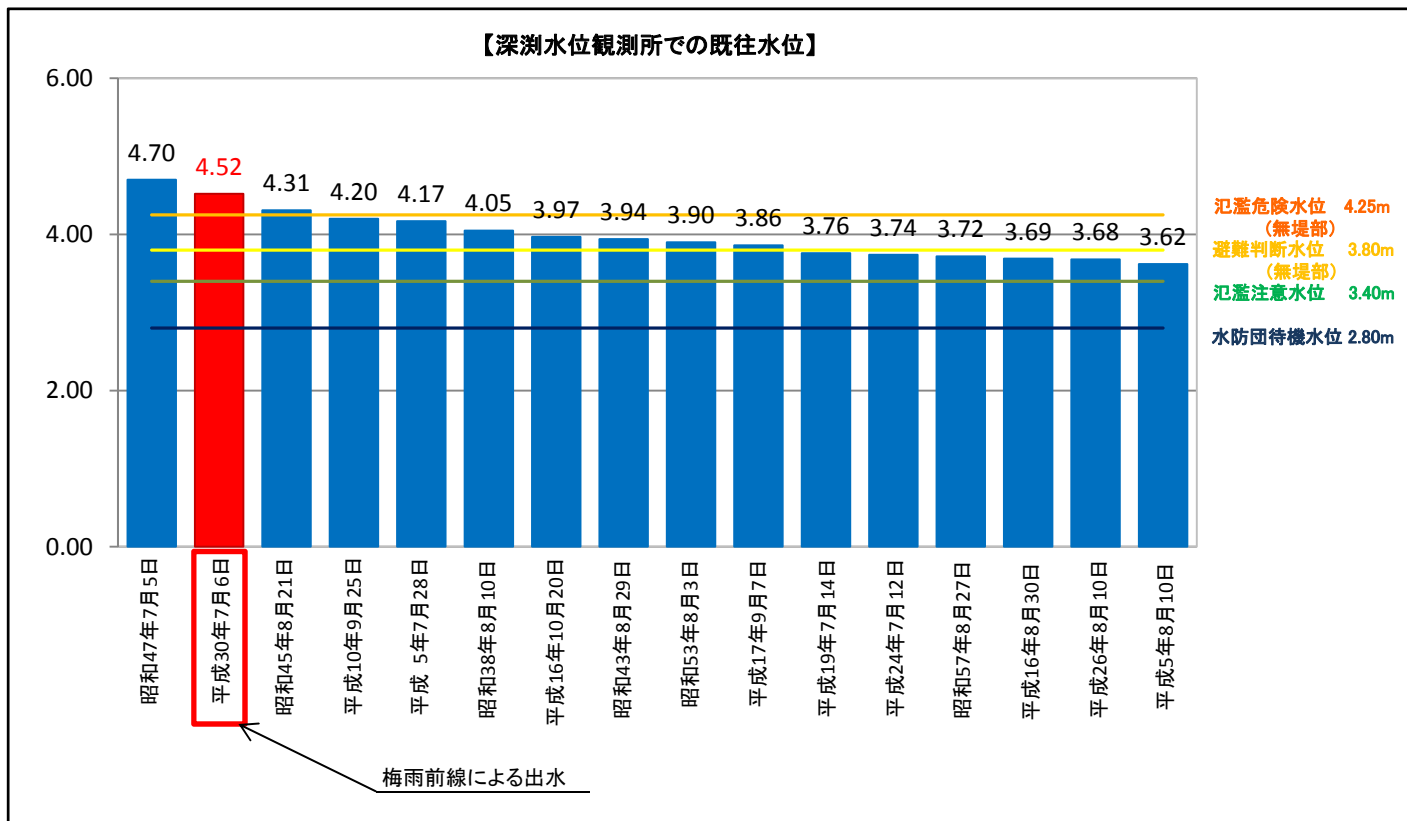


■ 出水経過一覧 (7月5日から7月7日)

- 7月 5日 5時00分頃 水防団待機水位2.80m超過
- 7月 5日 8時00分 高知河川国道事務所 注意体制
- 7月 5日 10時28分 大雨警報発令
- 7月 5日 14時40分 水防警報第1・2号(待機・準備)発令
- 7月 5日 19時50分頃 氾濫注意水位3.40m超過
- 7月 5日 20時30分 高知河川国道事務所 注意体制→警戒体制
- 7月 5日 20時50分 水防警報第3号(出動)発令
- 7月 5日 21時10分 物部川氾濫注意情報発令
- 7月 6日 0時20分頃 避難判断水位(無堤)3.80m超過
- 7月 6日 0時50分 物部川氾濫警戒情報発令
- 7月 6日 5時20分 高知河川国道事務所 警戒体制→非常体制
- 7月 6日 5時40分頃 避難判断水位(有堤)4.10m超過
- 7月 6日 6時00分頃 氾濫危険水位(無堤)4.25m超過
- 7月 6日 6時30分 物部川氾濫危険情報発令
- 7月 6日 6時50分頃 ピーク水位4.52m記録
- 7月 6日 6時53分 洪水警報発令
- 7月 6日 7時40分 物部川氾濫発生情報発令
- 7月 6日 9時40分頃 氾濫危険水位(無堤)4.25mを下回る
- 7月 6日 10時50分頃 避難判断水位(有堤)4.10mを下回る
- 7月 6日 12時30分頃 避難判断水位(無堤)3.80mを下回る
- 7月 6日 14時00分 物部川氾濫注意情報(警戒情報解除)発令
- 7月 6日 15時20分 高知河川国道事務所 非常体制→警戒体制
- 7月 6日 16時00分頃 氾濫注意水位3.40mを下回る
- 7月 7日 11時50分頃 氾濫注意水位3.40m超過
- 7月 7日 12時50分頃 避難判断水位(無堤)3.80m超過
- 7月 7日 13時15分 物部川氾濫警戒情報発令
- 7月 7日 14時20分頃 避難判断水位(無堤)3.80mを下回る
- 7月 7日 16時40分頃 氾濫注意水位3.40mを下回る
- 7月 7日 18時30分 物部川氾濫注意情報(警戒情報解除)発令
- 7月 7日 18時50分 水防警報第4号(解除)発令
- 7月 7日 23時30分頃 水防団待機水位2.80mを下回る

物部川の出水状況 (平成30年7月 梅雨前線) ②

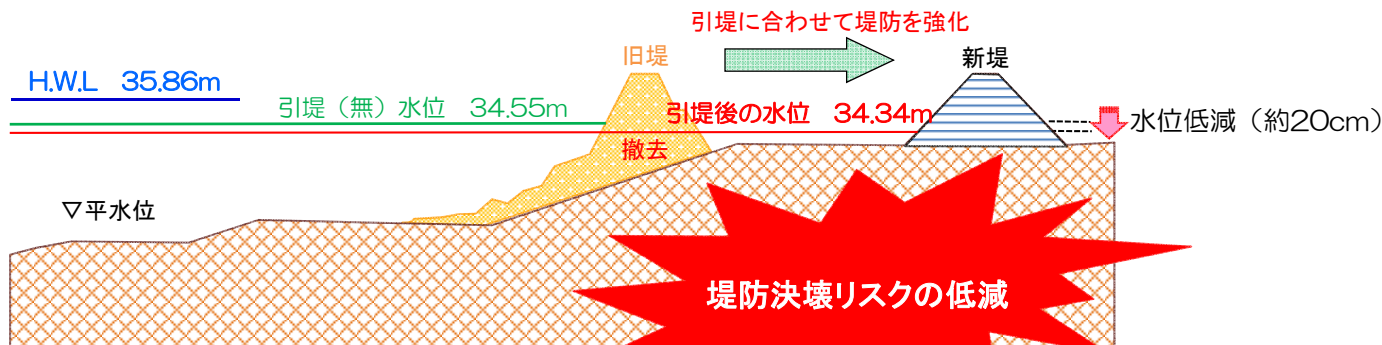
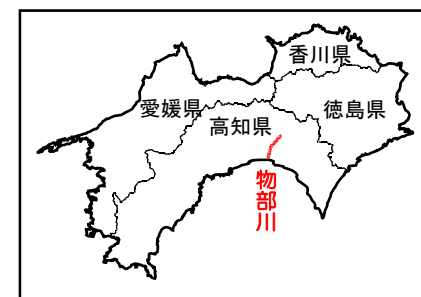
今回の深淵水位観測所(基準地点)の最高水位は、昭和36年からの観測開始以降2番目の水位である4.52mを記録しました。なお、最大流量は、約3,600m³/s(流量観測値・速報値)に達しました。



治水事業の効果

しものむら
(下ノ村箇所の引堤事業による効果)

- 物部川最大のネック箇所である下ノ村において、流下能力の向上のための引堤を実施中。
- 下ノ村箇所の引堤事業では、新堤は完成し旧堤を撤去しているところであり、暫定的にも流下能力が向上していた。
- 今回の梅雨前線により7月3日から7月7日までの流域平均総降水量は1,219mmにも及んだが、当該事業により河口より8.6kmの地点において**約20cmの水位低減効果**を発現。
- 引堤事業がなければ、下ノ村箇所で堤防が**決壊するリスクが高まり**、もし決壊した場合は浸水面積3,144ha、被害額約300億円に及ぶ浸水が発生する可能性があった。



引堤による水位低減イメージ図



※本資料は速報版であり、今後変更となる場合があります。